

【抗ウイルス薬の種類】

|         |   |
|---------|---|
| アシクロビル  | のみ薬 塗り薬 点滴  |
|         | ヘルペスウイルスのDNAに作用して、増殖を阻害する。安全性が高く副作用は比較的少ない。                 |
| バラシクロビル | のみ薬   |
|         | アシクロビルの吸収率を高めたもので、体内でアシクロビルに変換されて効果を発揮する。1日2〜3回、5日間服用。      |
| ピダラビン   | 塗り薬 点滴  |
|         | ヘルペスウイルスの増殖を抑える。発症初期に使用することで症状の悪化を防ぎ、治癒を早める。早期に使用するほど効果が出る。 |

Q3 病院での治療法は？

**A** 治療の基本は抗ウイルス薬による薬物療法

ヘルペスウイルスを根本から退治することはできません。しかし、活発なウイルスの増殖を制御し、症状の悪化を抑えることはできます。適切な処置をするのが早ければ早いほど、症状はその分軽く済み、回復も早まります。口唇ヘルペスが疑われる場合や兆しが現れたらすぐに、皮膚科や耳鼻咽喉科などを受診しましょう。

最も効果的な治療法は、ウイルスが増えるのを抑える薬（抗ウイルス薬）を使った薬物療法です。抗ウイルス薬には塗り薬とのみ薬、点滴の3種類があり、症状

の程度等によって使い分けられています。

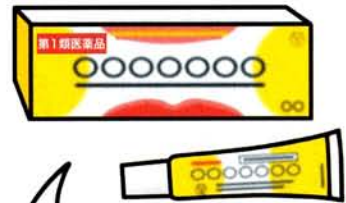
- 塗り薬（軟膏またはクリーム）……再発頻度が少なく、軽症の場合に処方される。症状がそれ以上広がらないようにする効果がある。
- のみ薬（錠剤または顆粒）……皮膚の症状だけでなく、神経節のウイルスの増殖を抑える効果がある。
- 点滴……初感染で重症化している場合や免疫不全の基礎疾患がある場合、アトピー性皮膚炎の人などには点滴を行うこともある。

そのほか、症状によっては抗生物質や鎮痛剤、ビタミン剤を処方する場合もあります。



Q4 口唇ヘルペスの市販薬について教えて

**A** 第1類医薬品の市販薬が再発時に使用可能



医療用抗ウイルス薬アシクロビルを配合

口唇ヘルペスの再発治療薬（塗り薬）が第1類医薬品として市販されています。病院でも処方されている抗ウイルス薬、アシクロビルを配合した\*スイッチOTC薬です。

口唇ヘルペスは、一度症状が治まってもウイルスは消滅せず神経節に潜伏するため、再発を繰り返します。市販の塗り薬はこの再発時に限定して使用が認められています。

過去に口唇ヘルペスと診断されたことがあり、再発の兆しが現れているときに早期治療に役立ち、回復も早まるので利用する

発症時に患部の悪化を防ぐには？

症状の悪化を防ぐためには、まず患部を清潔に保つことが大切。症状が出ているときは強い紫外線避け、十分な休養を。炎症を悪化させるアルコールは控えましょう。また、早めに抗ウイルス薬を使用することは悪化を防ぐだけでなく、回復を早めることにもつながります。



▲マスクの着用は、紫外線から患部を守るだけでなく、他人への感染を防ぐ。

とよいでしょう。

初めて発症したと思われる場合は、症状が重症になる可能性があります。さらに、口唇ヘルペスかどうかは初感染では自己判断が難しいために、市販薬は使用しないで、医療機関を受診しましょう。

また、症状が起こっている範囲が広い場合や、市販薬を5日間使っても症状が改善されない場合は使用を中止し、すぐに病院を受診してください。

\*スイッチOTC薬とは  
これまで医療用医薬品に限って使用されていた有効成分を、一般用医薬品（薬局・薬店等で購入できる医薬品）に転用（スイッチ）した医薬品のこと。